

第1回川崎市文化芸術振興会議市民ミュージアム部会 会議録（摘録）

- 1 会議名 川崎市文化芸術振興会議市民ミュージアム部会
- 2 日 時 令和7年12月10日（水） 10時00分～11時30分
- 3 場 所 川崎市本庁舎復元棟101会議室
- 4 出席者
 - (1) 委 員 藤嶋委員（部会長）、稲庭委員、中村委員、平井委員
 - (2) 事務局 (川崎市市民ミュージアム) 井上館長、古泉担当課長、
山崎担当係長、前崎職員
(市民文化局市民文化振興室) 井上担当係長
(市民文化局市民文化振興室新たなミュージアム準備担当)
前原担当課長、松本担当係長
(学芸業務受託者) 佐藤学芸室長、奈良本教育普及部門長
- 5 議 事
 - (1) 令和7年度事業の事業報告及び評価について
 - (2) 令和7年度今後の事業予定について
 - (3) その他
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0名

■ 議事録

○ 開会

【井上館長挨拶】

【委員紹介・事務局紹介】

【会議の公開等】

【議事内容】

（事務局から、資料1「令和7年度川崎市市民ミュージアム活動評価について」説明）

（事務局から、資料2 展覧会①「むかしのくらしー1950年代の日常ー」について説明）

- 平井委員 アンケートの回収について、ワークショップではスタッフがいたことで回収できたということだが、展示室において例えば受付のスタッフがアンケートへの回答を促す余地はあったのか。実際に会場へ足を運べなかったため状況がわからないところではあるが。
- 事務局 展示会場の大山街道ふるさと館は総合受付があるものの、展示室からは離れている状況であり、また、入館者は受付の横を通過するものの、必ず受付と目を合わせて入っていく構造になっていないため、受付からの声掛けは難しい。展示室には紙のアンケートと QR コードを置いているが、なかなか回答してもらえない状況。
- 平井委員 このことと関連して聞くが、この館で又はこの館を中心に活動を行っているような、川崎の歴史について活動している方、ボランティアの方はいないのか。会期が2か月あるので、毎回とは言わずとも、そういった方々による展示解説等、地域連携を通じて観覧者とのコミュニケーションができれば、深い学びやアンケート回収の促進につながるのではないか。
- 事務局 大山街道ふるさと館は、展示室内にはスタッフが常駐しないものの、館の受付にはスタッフが常駐し、日ごろから大山街道についての資料展示等を行っており、地域に根差した施設となっている。館に関わっている方と連携・協力できないか、というご意見については今後の課題としてぜひ考えていきたい。学術的な展示解説ができるものなのか、ご協力できる方がどのくらいいるのか、については現状こちらでは把握していないところである。
- 藤嶋議長 参加されたお子さんとはコミュニケーションはあるのか。
- 事務局 イベントにおいては各ブースごとにスタッフがいたので、コミュニケーションはできている。
黒電話に初めて触った等、アンケートへの回答もいただいている。
- 稲庭委員 展示室にはスタッフが常時1人もいない状況なのか。
- 事務局 その通り。
- 藤嶋議長 本展の評価は来館者の目標も達成できているので十分に達成の「A」で良いか。
- 各委員 「A」でよい。

(事務局から、資料2 展覧会②「アニメあらかると！ まわる、つながる、アニメーション」について説明)

- 稲庭委員 興味深く、貴重な機会で、他のミュージアムができない取り組み。当日参加が3割ということで、当日参加についての広報が課題と考えているようだが、事前に広報して、早い時期から事前申込みできたほうがよいのではと考えるが、当日券ありきの広報をしていきたいというのはどういった趣旨か。
- 事務局 大きい上映会場の場合は、事前申込みを行い席も予約して、という方法があるが、ショートフィルムの上映のような小規模の上映会であれば、当日すぐには入れるというイメージがあり、事前予約はやりにくいとの関係者からの意見があった。今回はチラシに当日来ても入れるということを大きく記載できていなかったため、次回以降は大きく記載していきたい。
- 稲庭委員 どのくらい前から広報していたのか。

事務局 約2か月前から。

稲庭委員 自分自身も情報をキャッチできていないところもあるが、魅力的な企画である一方、広報の課題はあると感じた。

ワークショップに関して、2回に渡って開催しているが、回によって当日参加者は減少したか。

事務局 ほぼ全員が2回とも参加した。

稲庭委員 2回参加するというのが参加者としてハードルがあったのでは、と思い聞いたもの。

中村委員 事前申込み制について、SNS からののか、ポスターの QR からののか、という申込み時の流入率も資料に記載していただきたい。参加者の7割程度に当たる事前申込みがどこから来ているのか、ということが確認できれば、振り返りがアンケート結果のみに頼ることもなくなり、情報が取得できてよいと思う。

事務局 申込み経路については把握しているので、今後共有していく。

平井委員 事前申込みについては、有料コンテンツかつ座席に限りがあることなので理解はするが、参加の機会創出に影響が出るのがもったいない。当日券ベースとは言わずとも、直前まで迷っている人を受け入れる余地があったほうが良いと思う。当日残席がなく入れない可能性があることも明示しつつ、当日も受け入れる体制を。

また、コンテンツによって来場者、興味関心がある方の情報を仕入れるルートが異なると思う。例えば、今回のような映像が好きな人に広報するには、難しいとは思いますが、映画の前の広告で次に行くものを決める人もいる。コンテンツに関連するルートで広報できるとよいと思う。SNS でのハッシュタグのつけ方1つでも変わるところでもある。普通の展覧会の広報手法とあまり変わらないと感じたので、今後検討してみしてほしい。

藤嶋議長 本上映会の評価は概ね達成の「B」で良いか。

各委員 「B」で良い。

(事務局から、資料2 教育普及①「修復とその周辺「和綴じ」一つくってみよう！にほんのほんー」について説明)

中村委員 国立の施設の和綴じワークショップに参加したが、地域でやっているならこちらに参加したかった。抽選となったということで良い企画であったと思うし、自分が参加したものは無料だが簡易的な和綴じであったため、300円でしっかりした和綴じを作成できるならよいと思った。

委員としての情報収集について、取得できていない情報が多いことが分かった。委員に事前に情報共有してもらえると、実際に市民ミュージアム主催のイベントに足を運ぶ機会が増え、部会での意見にも厚みが出るかと思う。来年度以降の委員への情報共有について検討いただきたい。

藤嶋議長 オンラインに情報掲載するだけでなく、委員あてにいただければと思う。現場に行っただけで意見を出すことも重要と思う。

事務局 情報提供についてはすぐ対応できることなので、実施していく。

藤嶋議長 本事業の評価は十分に達成の「A」で良いか。

各委員 「A」で良い。

(事務局から、資料2 開催中、今後行われる展覧会、教育普及事業について説明)

平井委員 英伸三展について、民間ビルの2階で開催しているということだが、以前サイトスペシフィックな会場として展覧会のクオリティは高くなった一方で、会場都合で開場期間等が限られ、来場者数が減って残念な件があった。他都市では駅チカの会場で開催している事例もあり、このような開催手法も重要かと思う。今回の展覧会は向ヶ丘遊園駅の駅チカ物件での開催だが、来場者の人数について感触はどうか。

また、社会科教育推進事業について、学校からの申込みに応じて行くということだが、最初の接点作りはどう行っているのか。博物館はどこも学校に行くことを検討しているが、学校は忙しく、年間のスケジュールも事前に確定していることから、博物館がやりたいと思っていても、先生側とのコミュニケーションが難しく、実施できないような話を聞くので、教えてほしい。

事務局 英伸三展については、駅チカではあるが非常に古い物件で、1階にスーパー、2階には飲食店が入っており、展覧会会場としての周知ができておらず、外観も展覧会を開催しているようには見えない物件であるため、通りすがりの方に入ってもらうのはなかなか難しいように感じている。平日100人は難しい状況にある。

社会科教育推進事業については、年度初めに事業内容と連絡先の周知を行っており、学校側から1時限又は2時限で実施してほしい旨連絡を受け、出張する。

平井委員 学校にチラシを配布しているということか。

事務局 リーフレットを全校に配布している。

平井委員 連絡いただければいつでも実施するようなご案内をしているのか。

事務局 開催時期については各学校と調整している。

平井委員 川崎市の学校数等を考慮して今すぐ評価することはむずかしいが、社会科教育推進事業は活発に実施できているように感じており、引き続きうまくコミュニケーションをとって行ってほしい。

英伸三展に関しても、スーパーがある等、地域の人が行く建物ではあるので、もったいなく感じ、展示会場に人をうまく引き込めるようにしてほしい。

稲庭委員 社会科教育推進事業における出張事業について、令和6年度は約50校ということで精力的に活動していると感じている。50校は十分な数だと感じる。

学習指導要領に準じて実施するようにしていると思うが、指導要領も改定が検討されているところで、学びの在り方が変わっていく中で、事業内容のアップデートはどのような状況か。また、学芸員の派遣人数などを考慮して、次に向けどのようにブラッシュアップしているのか、教えてほしい。

事務局 内容のアップデートに関しては、学校からのアンケート結果を反映していこうとしているところ。指導要領の改定についても検討しないといけないと思っているところ。

出張授業については、社会科教育推進事業と、学びのサポートプログラムで実施してい

るが、合わせて週2校までとしており、1回の授業で派遣する学芸員の人数は2名で11人の学芸員で回している。

稲庭委員 大勢の学芸員で回しており、市民ミュージアムの柱となる事業と感じた。子どもたちとミュージアムの出会いの場として重要な活動と思う。新たなミュージアム立ち上げまで、引き続き行っていければと思う。今もやっているとは思いますが、市民ミュージアムの紹介、新たなミュージアムの紹介といった全体的な紹介の場として活用するのも良いのでは。

藤島議長 台風被災後、館がない状況で活動している特異な状況だが、開館まで継続してもらえれば。

(事務局から、資料2 資料等の収集・受入、研究、修復に関する業務、広報に関する業務、収蔵品の外部利用に関する業務、ミュージアムショップの運営に関する業務、市民ミュージアム事業費に関して事務局から説明)

平井委員 予算の市民ミュージアム学芸業務委託以外の費用が約5億円となっているが、主に収蔵品の修復のための費用か。

事務局 修復関連として外部倉庫の借り上げ費用等も含んでいる。

平井委員 修復関連の費用で5億円という理解で良いのか。

事務局 現施設の管理費用等も含んでいる。

稲庭委員 市民ミュージアム学芸業務委託の諸経費が大きい内訳は。

事務局 主に人件費になる。

○ 閉会